

ODF 解析後の各種データ処理

2019年06月26日

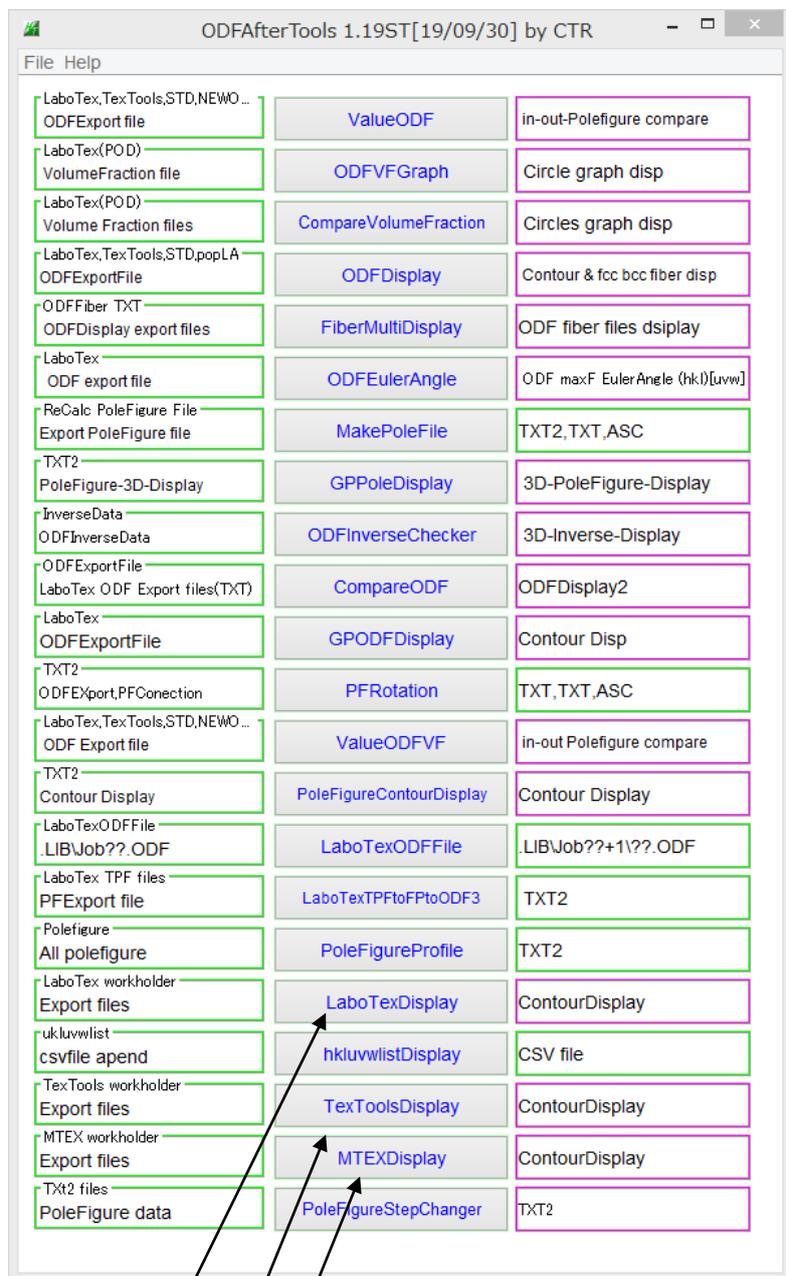
HelperTex Office

概要

各種ODF解析後、試料毎に各種処理が行われている。

ODF解析後、ODF入力データのError評価、ODF方位密度、Fiber、逆極点密度など解析処理によるデータ処理の立ち上げが必要になります。

CTRソフトウェアではODFAfterToolsとして纏めてあります。



この中から、頻繁に使用する解析法をODF解析別に以下に纏めてあります

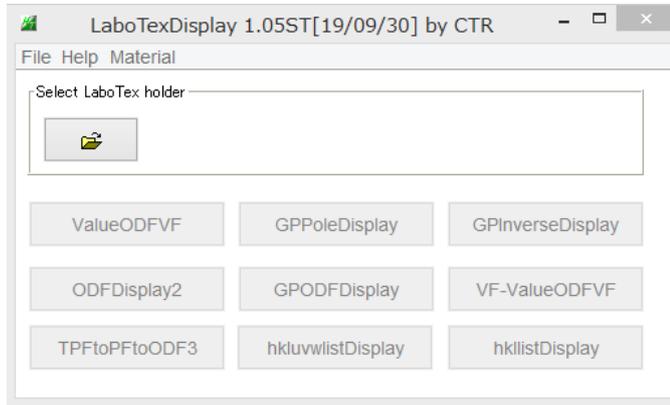
LaboTexDisplay

TexToolsDisplay

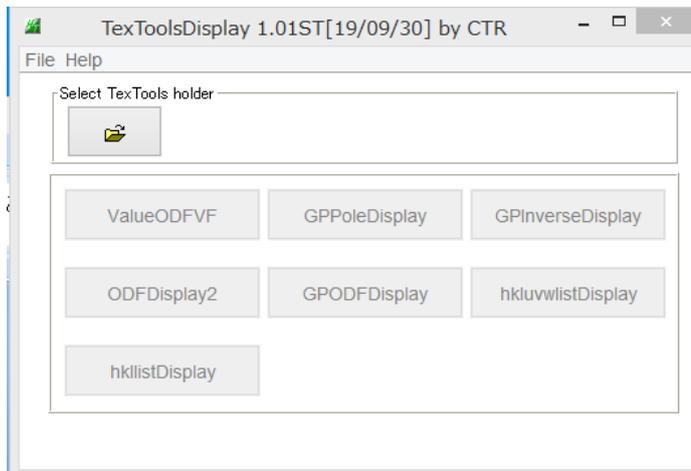
MTEXDisplay

StandardODFDisplay (StandardODFTools に配置)

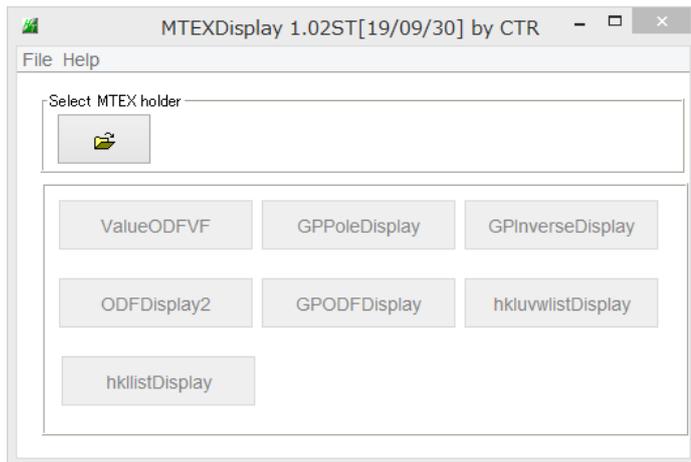
LaboTex



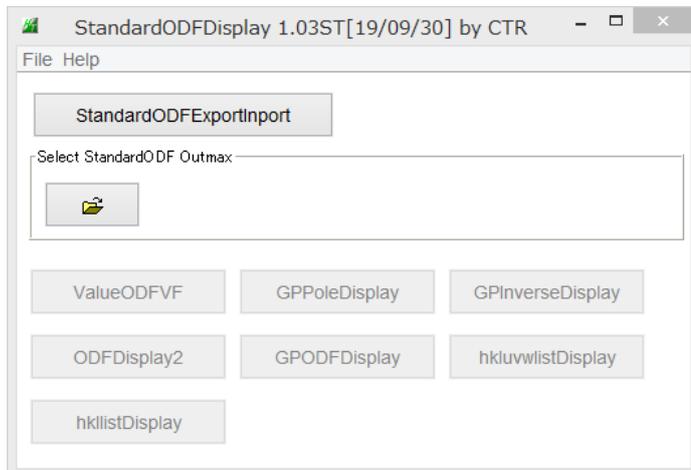
TexTools



MTEX

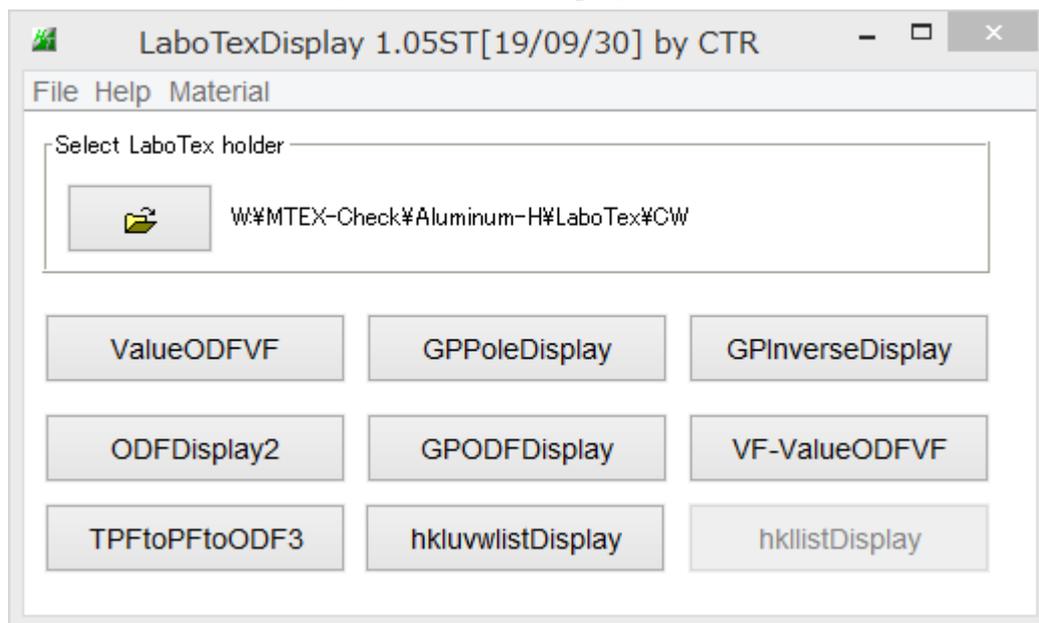


StandardODF

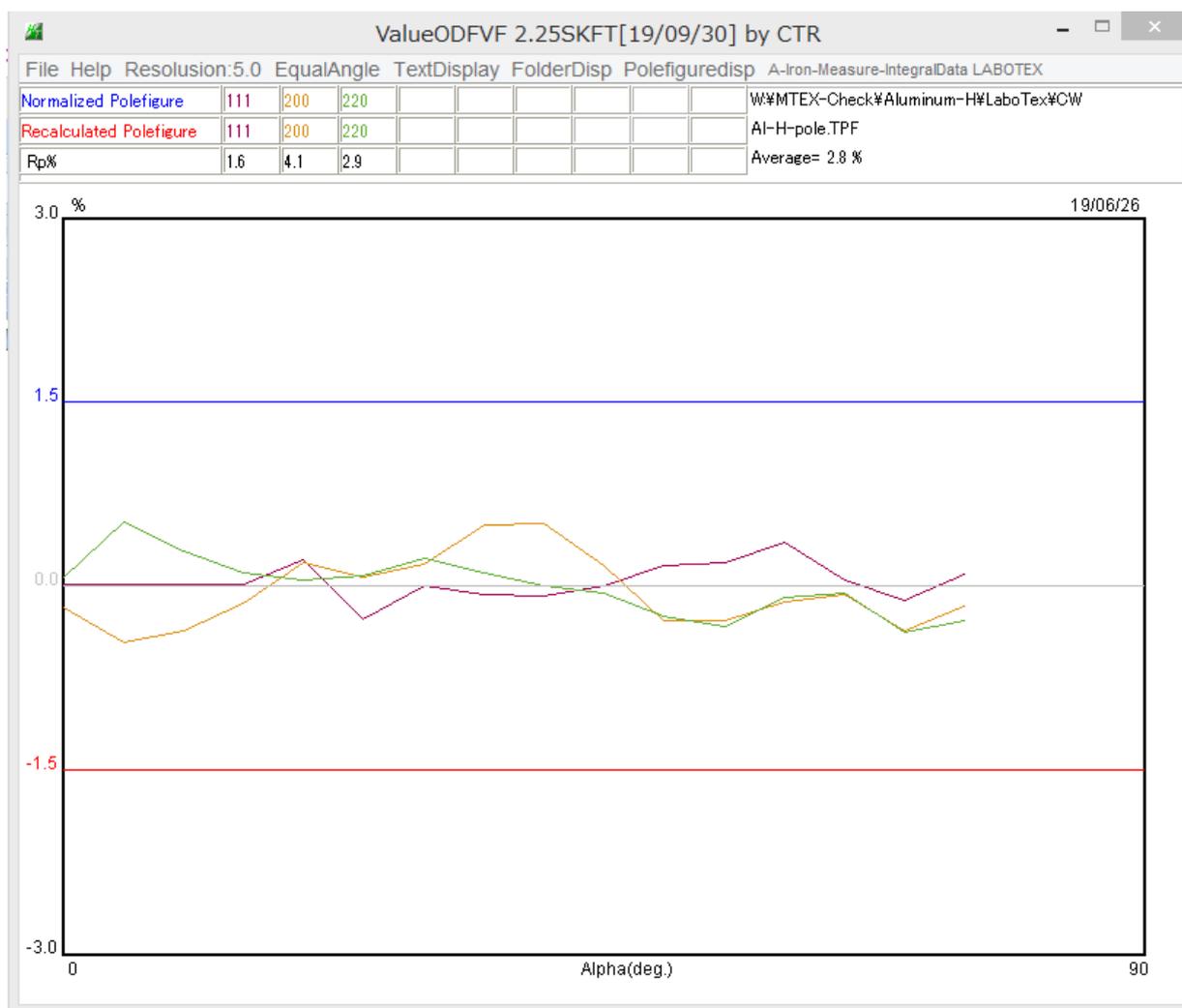


操作方法

ODF 解析後データを E x p o r t し、本 Display でホルダーを指定する。



Export されているデータにより各種処理が Enable になる。最初に ValueODFVF で Error 評価

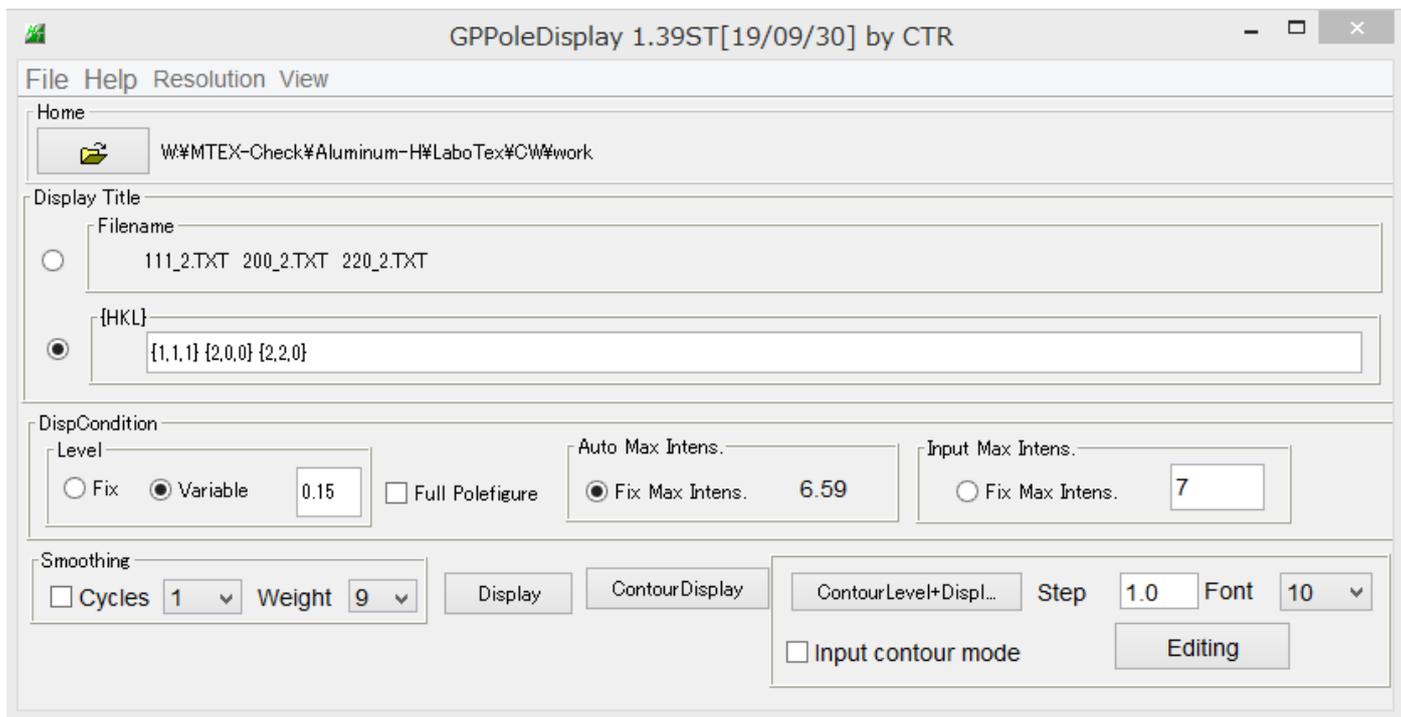


R p %プロファイルが±1.5%以内であることを確認する。

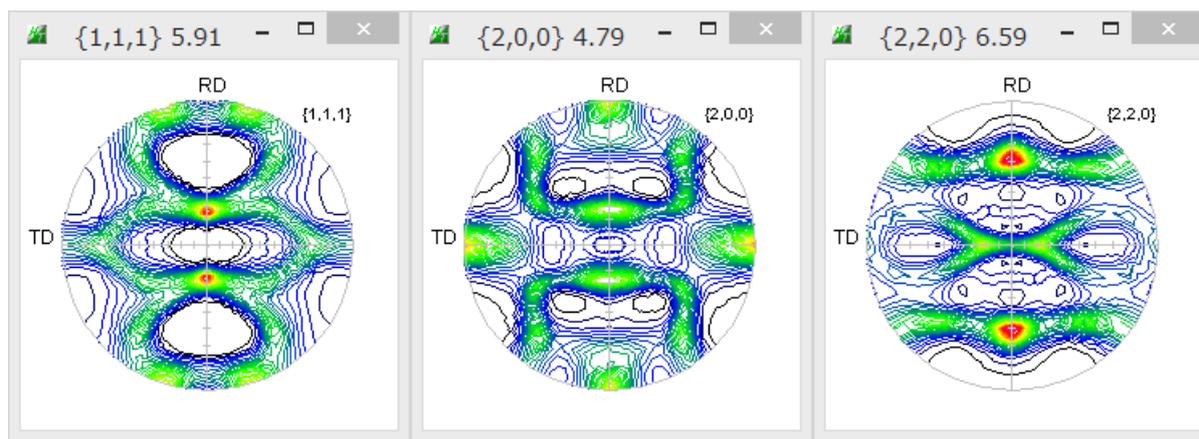
最大方位密度が1.5以上や、極点図中心に大きな極がある場合、部分的にはみ出ることもあります。プロファイルの中心より右側が徐々に低下する場合、d e f o c u s 不良と考えます。

1.5%以上の場合はバックグラウンド処理、d e f o c u s 処理、平均化処理の見直しを行う。

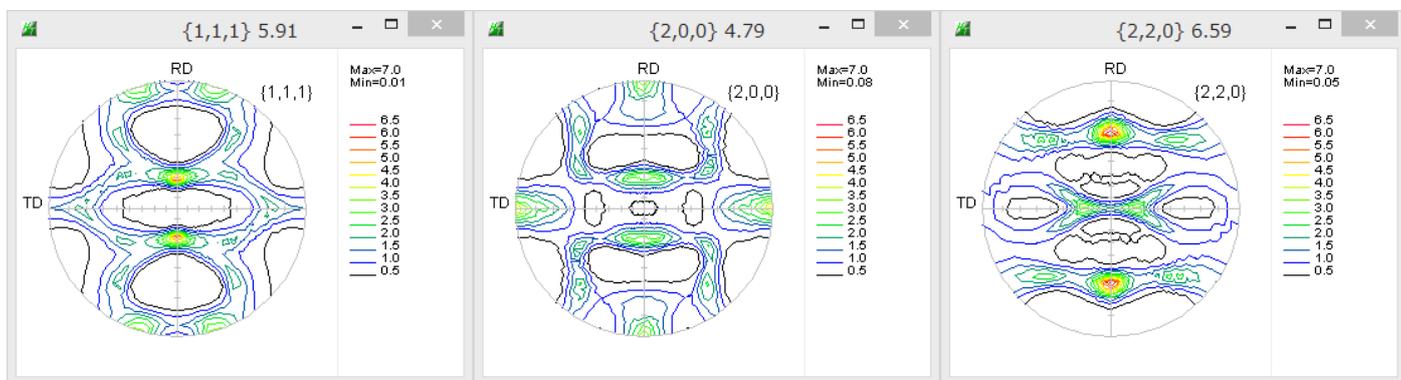
GPPoleDisplay により再計算極点図の確認



極点図の表示方法を選択して表示

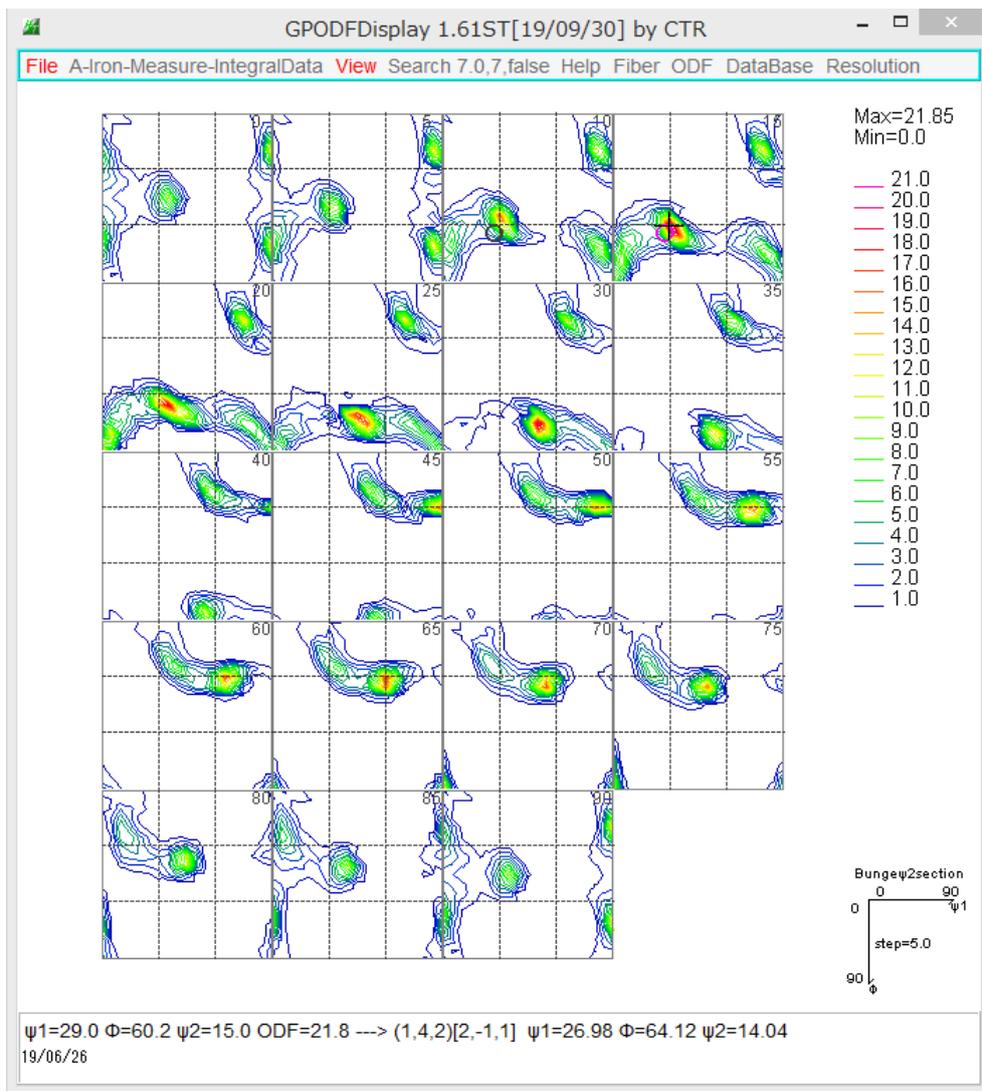


ValueODFVF で最大方位密度は図のタイトル部分の数値



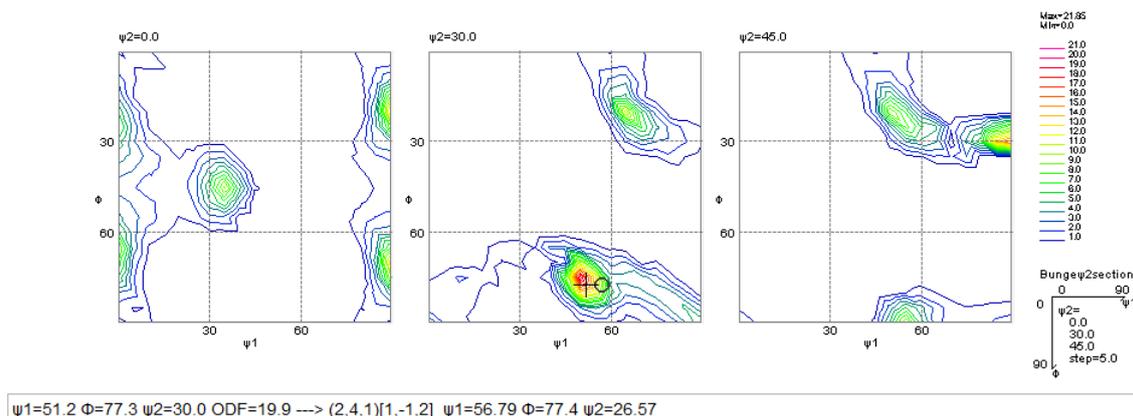
表示最大密度を7に固定し相対方位密度で表示

GPODFDisplay で ODF 図の表示

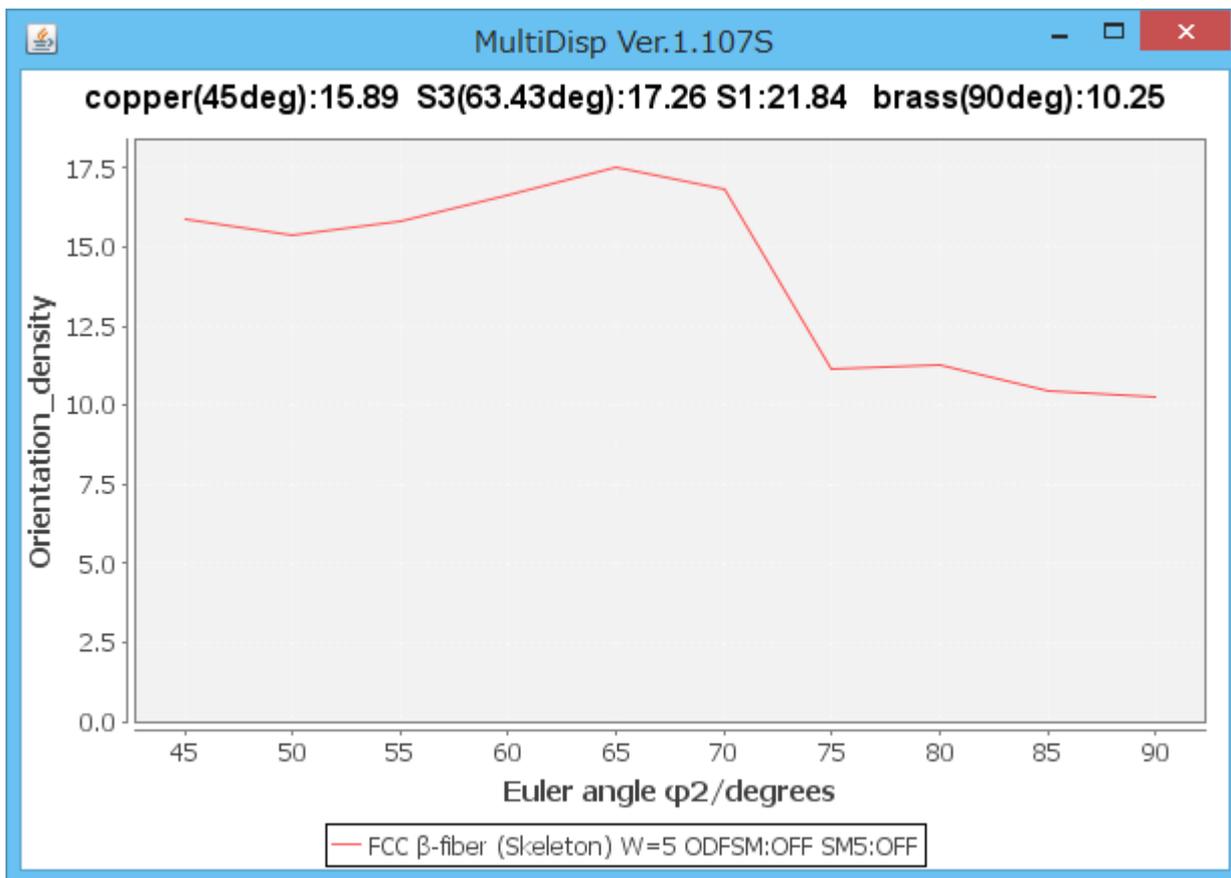


マウスカーソル移動によるリアルタイム結晶方位表示、クリックで表示が固定

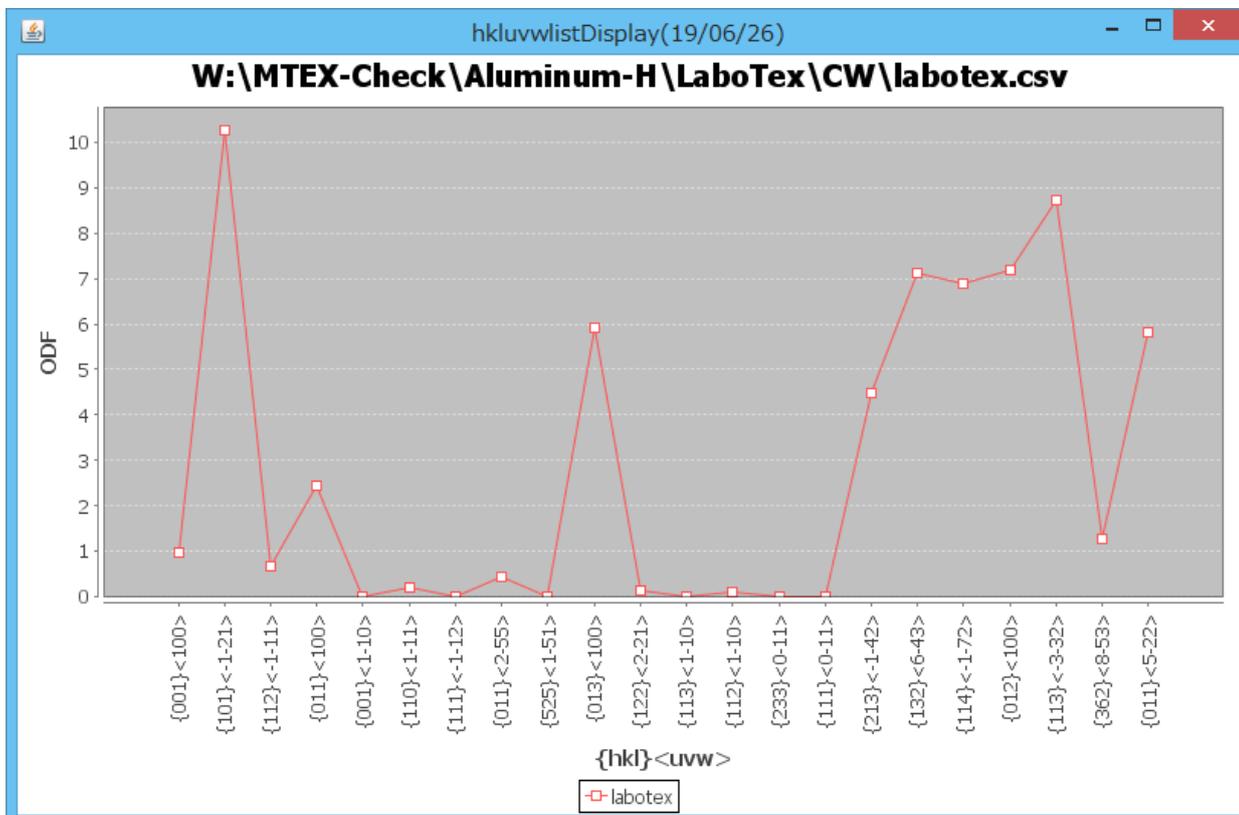
3ODF 表示



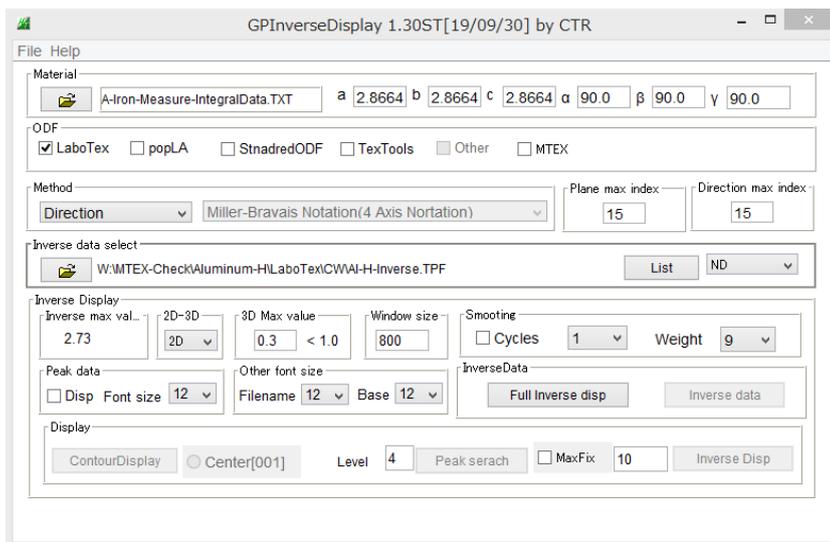
Fiber 解析



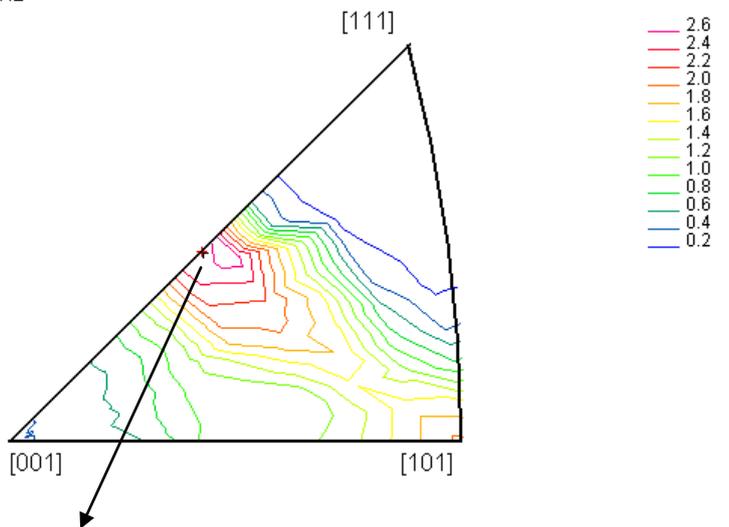
結晶方位計算



GPInverseDisplay で逆極点解析

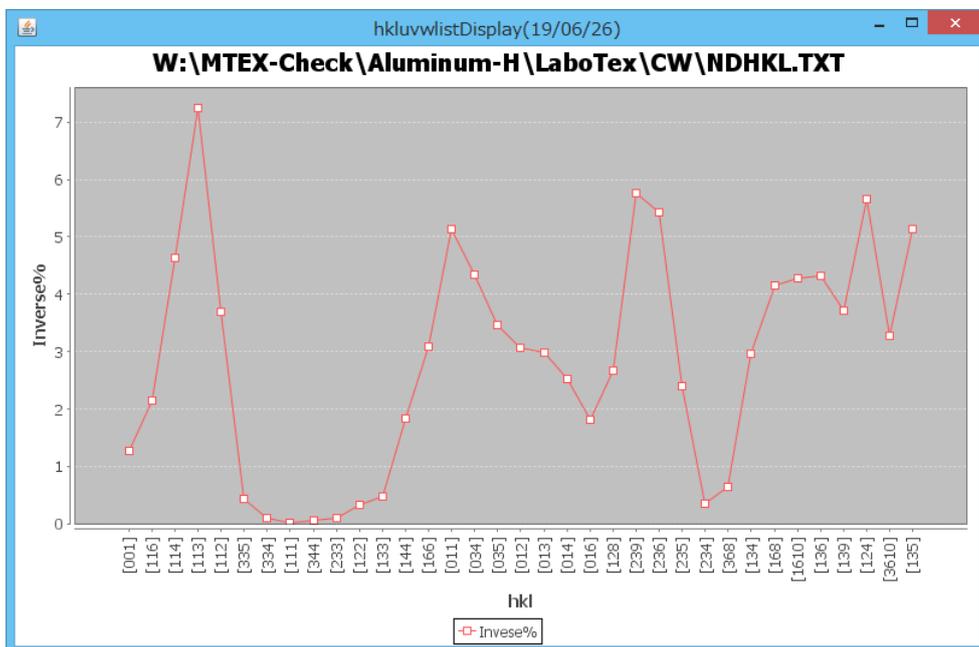


W:\MTEX-Check\Aluminum-H\LaboTex\CW\Inverselist.TXT
ND



($\phi=28.0$, $\beta=44.7$) $Z=2.64 \rightarrow [3,3,8]$

36BOX 密度表示



hkluvwlistDisplay や hkllistDisplay は複数の結晶方位密度プロファイルや方位密度プロファイルの比較を行う。

以上の機能は全ての ODF 共通

機能の詳細は説明書参考にして下さい。